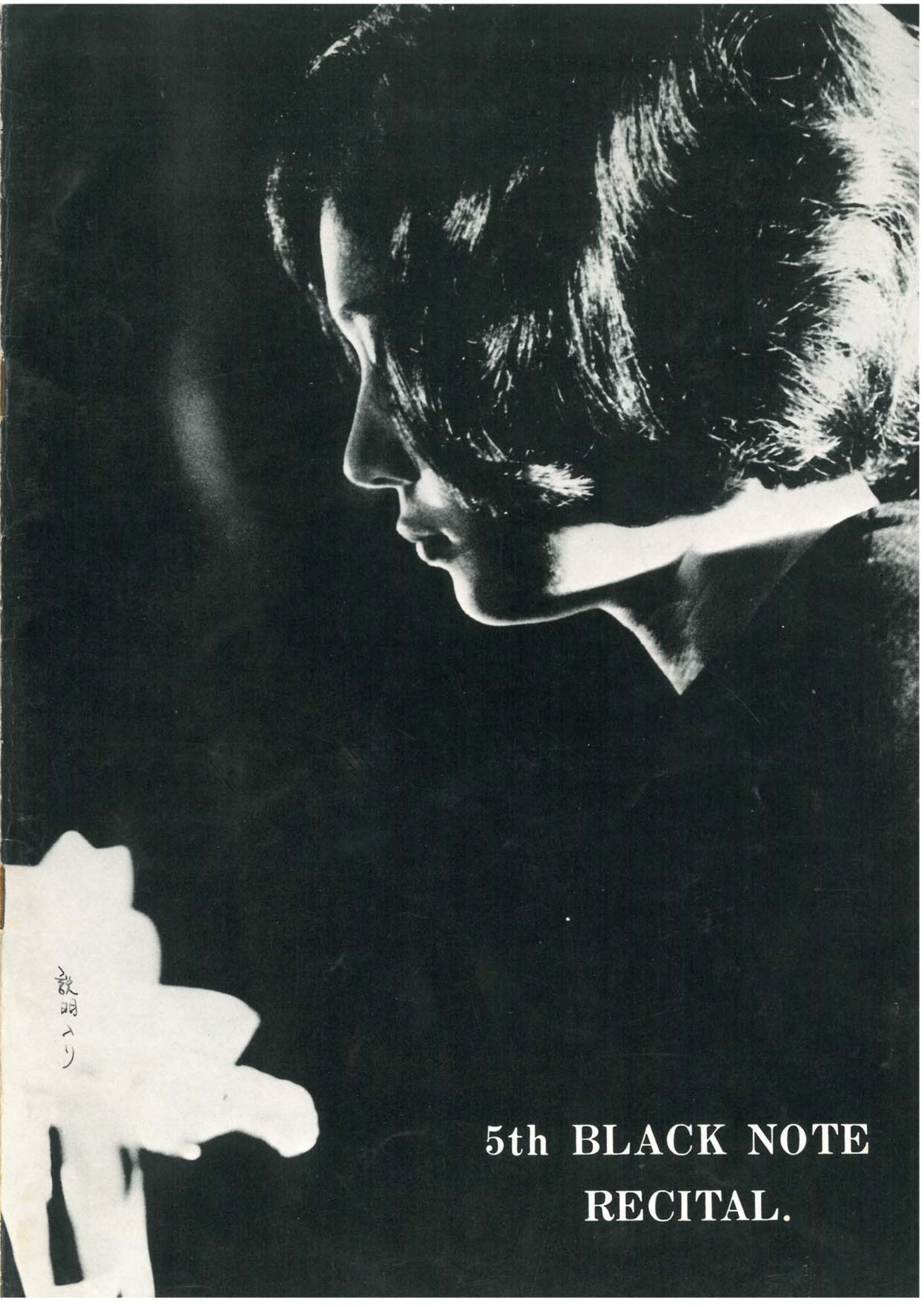

5th BLACK NOTE
RECITAL.

恒例2月の声をきくとブラックノートリサイタルとはねかえって来るようになりました。

今年で5回、部員一同在学中最大の行事として寒中練習(？)に励んだことはいうにや及ぶでございます。

ブラックノートという現在の編成をむかえてから3回。過去をふりかえって見ますと数人の編成で音楽部を創設した先輩がブルーとピンクの照明のもとにテナーサックスの“雨に咲く花”を演奏したころの電子工学院のホールが出来上ったばかりのころ本当に月日のたつのは早いものでその先輩も一人の社会人として何名もの部下を統率して仕事に励んでいますが、なつメロのなつメロたるゆえんはこんなところにあるのだろうと思われます。

音楽に国境なしといわれます又今年も立派なリサイタルが催しかつ開かれるのは法政大学ニューオレンジ、山野楽器等の昔からの協力この立役者伊波先輩、そしてブラックノートの先輩たち又学院関係者指導等の力あればこそです。これらに報いてくれるかどうかはステージからはねかえって来るメロディであり、リズムでと思います。

音楽評論家が演歌は音楽に非らずといっているようですが、演歌は心の歌であり、音楽は芸術であるからというようですが。

しかし、音楽とは音の美的表現であるということであれば、アーチストはプレーヤーでありタレントであるべきではないかともいえます。とにかく演歌がモダンジャズまで客席とステージが一体になって雰囲気を盛上げて行こうではありませんか。

雪、雪、雨と続いた。5回目のお天気は？

半永久的世話人？？？
カミヤマ

Feb, 1971

最後に本日のゲスト諸氏に最大の謝意を呈す。

上山源司郎

■BLACK NOTE ORCH.
5th RECITAL.
■1971・2・20 (WED.)
■日本電子工学院ホール

挨　拶

本日はいそがしいなか当ブラックノートのリサイタルに御来場いただきまして誠に有難とう御座居ました。おかげさまでクラブも本年で満〇才を迎えることになりましたこれもひとえに皆様方の御支援によるものと思っております。今宵はごゆっくりと演奏を御楽しみ下さい。

ちょうど昨年の今頃リサイタルをこの同じホールで行ったときから早いものでもう1年という歳月が流れてしまいました。振り返ると早い1年だったようですがそれまで先輩に甘えていた部員達にとってはその日からこのブラックノートの責任者達として、長く苦しい、たいへんな1年だったようです。なれないマネジメント、部員の和を保ってクラブをまとめる管理の問題、毎日のはげしい練習の中での学業との両立のむずかしさ、クラブの目標を何に、等々、それら1つ1つに悩み、苦しみ抜いて、他では味わえない音楽を通しての青春を過してまいりました。

そして、今日それらの中から生まれた全ての成果を音楽に託して発表する日を迎えたのです。たしかに技術的に雅さがあるかもしれませんが、これから演奏される1曲、1曲にメンバーの青春をやりぬいてきた誇りと、音楽への情熱をくみとっていただけたら幸いと思います。

終りにこの1年間当ブラックノートに対し、あたたかい御支援をいただきました諸先輩の方々、他のクラブの方々に心から感謝いたします。

顧　問　粕谷先生

月並みの言葉だが、月日のたつのは早いもので、正月が来たなと思っているうちに早くもリサイタルになってしまった。昨年の10月頃よりコンサートマスターから学院に来てバンドを見て下さい、と言われながらも何ひとつアドバイスもできなかったことを思うと全く申し訳なくこの紙面をおかりして深くお詫びしたい。そこで遅まきながらもひとつ感じたところがあったのでそれをのべて、本日のお客様共々考えていただければ幸いである。というのはビッグバンドジャズに少しでも感心を寄せる者にはこの楽団を知らないということはまずありえない。カウント・ベーシー楽団の来演についてである。新年早々このバンドを聞きに行った人はそのすばらしい音楽に時のたつのも忘れたのではなかろうか。それは激しいショックにも似ていた。私は昨年のリサイタルに学生バンドは学生らしく言った。そして変にプロのバンドの真似をするなとも言った。しかし今年は、プロになれと言いたい。カウント・ベーシー楽団の、聞く者に対しての受けて立つ心構え、それは決して緊張さではなくリラックスさで私達をほぐしてくれ、その音楽が一度私達の耳に達するや知らづ知らづのうちに身体の中が熱くなってくるのをどうしようもなかった。リズムセクションの良さ、アンサンブルの妙味、ベーシーのピアノの憎さ、等どれをとってみても何でもかんでもがすばらしく感動せずにはおかせない音楽であった。それはジャズという型の芸術そのものであった。プロのなかのプロであった。その日の会場にも日本のプレーヤーが大勢聞いていた。プロも真けんに聞かせるプロ、何んと、すばらしくスケールの大きなプロではなかろうか、私が経験したその日の感動をここに書くにはあまりにも文章の拙劣さにおいてとても皆様にはお伝えできない。しかし今日のバンドのメンバーの中の1人でも、あの日のベーシーを聞いた人がいるならば、その人は私がプロになれという言葉を理解してくれると思う。そして真のプロに向い真剣にとりくむべきである。そこにはベーシーのプロというものとブラック・ノートのプロというものの中に共通したものが発見できると思う。

そして最後に私はベーシー楽団の入場料を少しも高いと思わなかったばかりでなく、おつりをもらったと同じ気持で帰宅した事を皆様にお伝えしたい。

技術顧問　伊波秀進

本日は皆様御来場まことにありがとうございます。今年も皆様の御陰をもって第5回ブラックノートリサイタルを佐藤充彦トリオ、のグループをゲストに迎えて盛大に行なえることを部員一同たいへん喜んでいます。

今年1年間の総まとめともいえるリサイタルですが振りかえってみるといろいろ苦労をしたこともありましたが諸先輩、顧問の先生、ビッグバンド、オブ・ログスの皆様にその都度励げまされ今日ここに至りました。音楽というものは特にビッグバンドとしては、ただラッパを吹くだけでは成り立ちません。それにたづさわるいろいろな人達の協力があってこそ初めて成り立ちます。このような面で私達ブラックノートはたいへんめぐまれていたと思います。合宿、ダンスパーティ、学院祭とその都度諸先輩、顧問の先生、ローグスの皆様には演奏を聞いていただきました。私達はその都度お世話になりほんとうに助かりました。部員一同深く感謝致しています。

今日は私達未熟ではありますが一生懸命演奏したいと思っています。2年間という短い演奏活動ではありますが部員一同大学のバンドに少しでも近づいて行きたいと目標をもっています。これからもその目標と、学生であるということを念頭においてブラックノートを育てたいと思っています。皆様もどうかこれからも御協力のほどを御願い致します。

最後に、今日私達の演奏に御協力下さいます、ホール関係者の皆様、諸先輩、ローグスの皆様に深く感謝致します。

部　長　蔵元修三

1 ST STAGE

1. SUOTH OF THE BORDER

2. RED ROSE FOR

3. NEVER

4. JAZZ EXODUS

5. TAKE FIVE

6. EASY MONEY

7. ONE TWO THREE

8. T:B CHA. CHA. CHA.

Baseをやらされた曲. ラテン

NEVER

ボサノバの軽いタッチのしずかな曲です。
途中のギターソロが印象的です。

RED ROSE FOR A BALU LADY

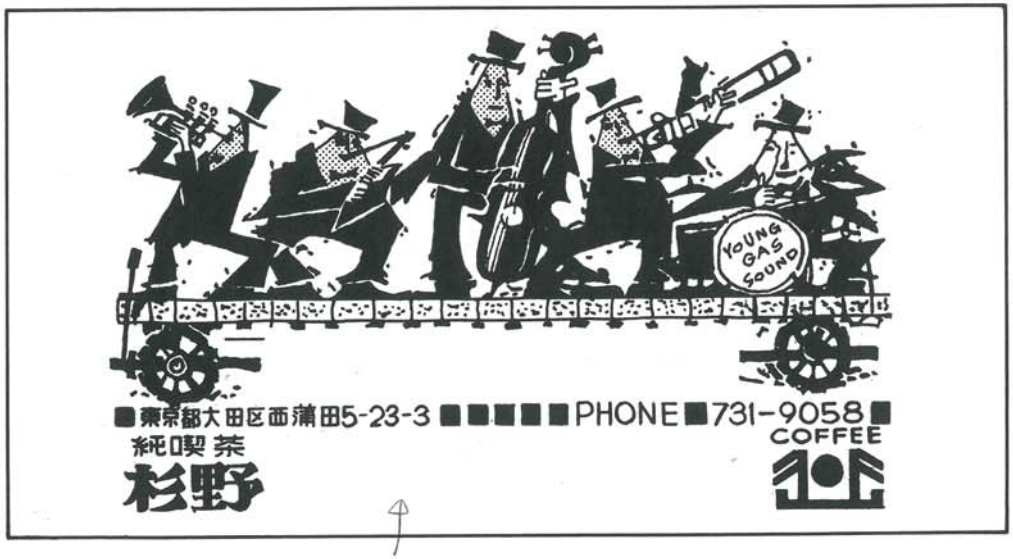
1948年に作られた曲で、65年にヒットしたという実に17年間も眠っていた曲です。ここでは、デューク・エリントンスタイルで、今はなきエリントンの片腕、ジョニーホッジズに捧げてTb、Asが唄い上げます。

TAKE 5 ファイブ

ベィブ・ブルーベックの作曲した、変拍子のスイングです。ここではクィンシィー・ジョーンズのアレンジでお聞き下さい。

JAZZ EXODUS

イスラエル映画「栄光への脱出」のテーマ・ミュージックです。ここではテットピースがReHのアレンジで音をフィチャーしてあります。



マッチのデザイン. 学校のすぐ近くで よく行く.
行くと なんとなく 2年のいるとこ

ブラックノートわるのり日記より――――その1

あるC年の1日

「オイ！オキロ」はたと目がさめて、時計を見て「あっ、やばい」必死の思いで、学校に、かけ込んでタイムカードを押す。（当校はタイムカードで出席を取ります）やっと一安心。食堂へ行って、パン2個位に牛乳1本（よくこれでもっと我ながら思う）教室へいって、一生懸命（一応）ノートを取る。「あーあ、やっと昼休みか」シーメも食わず、まず部室へ。「オハヨウゴザイマス」入ったころは、何となく不自然で言いづらかったこの言葉。今では、勤め帰りの人混みの中で先輩に会うと、でかい声出して「オハヨウゴザイマス」。
部室に10もいると間もなく、皆が（だいたい決ってる）やってくる。あるC年をつかまえて、シーメ食いに行こう！その後、もう1時間授業をうける。「今日3時間だったなぁ？」隣のヤツ「……ウン」ちょっと暇があるなあ、ヤンでも仕入れに行くかなっと。いつもいくコンチバ屋に行く。　バニ
「あっおはようございます！」ここでもD年に会う。台を見ると……結構出てる。じゃオレも。一獲千金を夢見て、ポケットから百円玉を1つ出す。……しばらくして……あーあ。ため息をつきつつ店を出る。その足で雀荘へ。ここでもD年に合う。さえない顔して、D年のみごとな？パイさばきを見てる内に、3時20分頃になる。そろそろ行こう。かと思い立ち上ると、後から「オイッ早く行けよ！」「ハイッ」部室に行って楽器を出していると、皆やって来た。「オッス」5階の教室迄楽器を上げるのが一仕事。冬でも汗が出るという、しろ物。クラブに入って一番初めに言われたことは、楽器をいかに早く運ぶかという事であった。基礎練習に始まって、全員で合わせる。時にはオコられ、時には冗談を言い、辛い時間であり、又楽しい時間でもある。6：30練習が終る。楽器を全部下へ降ろし、クラブハウスに運ぶ。入ってしばらくは楽器運びにあけくれるのである。
部室の前で、ミーティングをやって解散。さてメシでも喰うか。サイフの中を見て、「今日は豪華に……立喰いそばにするか」

家から書留の来る前の日のC年の1日でした。　　―クラブワルノリ日記より―

ブラックノートわるのり日記より――――その2

合宿でのでき事

長い様で短かかった合宿も今日1日、明日帰るという日。1日自由時間だった。
朝いつもの様に質素なシーメを終えた。朝っぱらから、ギターを弾く者、フトンにもぐりこんで、田舎に残して来た彼女の夢を見ようと必死になって寝てる者、犬とたわむれてるもの……練習が無いので気が抜けた様な感じがする。ひっくり返ってラジオを聞きながら、ハナクソをほじくって（こんなきたない話で――失礼しますぅ―）いる内に夜になる。OB、D年達とキャンプファイアーの仕度をする。皆でカンパイをする。　始めチョロチョロ、中パッパという具合いで、飲む程に酔う程に今迄おとなしかった連中が、本性を表わし始めて来た。庭で悪のりして楽器を持ち出している者、先輩にビールをつぐC年もいる。板の間で、じっくりすわり込んで飲んでる者もいる。かと思うと、クラブ員のC年の女の子に一生懸命についで、のませ様としている暇な者もいる。C年もD年もなく騒ぎまわっている。今迄かくし続けて来た？本来の姿を、ついに表わしたのである。早々とダウンしている者がいるかと思えば、酔って、その部屋迄わざわざ出かけていって、飲め、オレの酒が……」てな者もいた。
そうこうしている内、アルコールが効いて来たと見えて、静かになったころ、C年が1人いないと、騒ぎ始めた。D年「おいっ、どこへ行ったか知らねえか？」A：「知りません」B：「さっき、酔いさますと言って、どこか……河口湖（合宿所は河口湖畔）1周するって言って出ていきましたよ」「なにっ！」それからがたいへん。D年はほとんど出ていくし、残された（酔ってるので出させられなかった）C年も年も気がきでない。C：「酔って湖に落ちたかもしれねえぞ」D：「バカ、何言っている」探しに出た女の子の中には泣き出す子も出るし、てんやわんやの大騒ぎ。なんせ夜の事だし、近くにいてもわからないかもしれない。心配のあまり、探しに出ようとしたあるC年は、D年にとめられ、その内、酔ってるもんで、玄関の柱につかまって寝る始末。
当の本人は……というと（後日聞いたところでは）始めは、湖をまわるつもりで歩き始めたのだそうである。ところがいつの間にやら道がわからなくなり、ヒッチハイクの如く、車に乗せてもらい、あげくには、湖一周ではなく、隣りの湖（富士5湖の1つ）の方迄行ってしまったのだそうだ。いやはや驚いたものである。無事に帰って来たから良かったものの。皆を驚ろかした一幕であった。　　―あるC年のクラブワルノリ日記より―

国電
蒲田駅から1分
雨やどりに
nachi
NACHI・TEL 738-8820・NACHI・・・TEL738・8820・COFFEE・TEA
電子工から学院ホール2分

本学院の必要文具は，何んでも揃う
文具・事務用品の
イチカワ
〔万年筆・計算尺・タイプライター・特別割引あり〕
本学院正門前　TEL731-0354

2 ND STAGE

GEST TIME

1941年、東京生れ、6才の時よりピアノを始める。慶応普通部、高校を経て経済学部を1964年卒業。
高校時代よりすでにジャズを弾き始める。
「ジョージ・川口とビッグ4＋1」「稲垣次郎クィンテット」を経て、1964年卒業と同時に自己のトリオを結成（メンバーには、Bs稲葉国光、Dr小津昌彦）した。
1966年、アメリカのジャズ誌「ダウン・ビート」の奨学金にて、ボストン市「バークリィー音楽学院」に入学、2年留学した。
1968年、1年先に留学中のBs荒川康男と共に帰国、その年11月、Dr富樫雅彦を加えてトリオを結成、翌年東芝レコードより（LPレコード）「パラジューム」「ディフォメイション」を相ついで発表、「パラジューム」において、スィング・ジャーナル社、第3回ジャズディスク大賞、「日本ジャズ賞」を受賞しました。
作曲においても、「パースペクティヴ／ニューハード」に発表、同賞、特別企画賞を受賞。宮沢昭と共演した「いわな」それに「フォー・ユニッ」、70年においては、ソロアルバム「ホノグラフィ」（日本コロムビア）ニューハードと再び共演しました「天秤座の詩」（日本コロムビア）、「四つのジャズコンポジション」（東芝レコード）作曲しました。「無明頌」等。りっぱなレコードを発表、多彩な活躍を通じて、モダン・ジャズ界動向の指導的存在になっています。
現在のメンバーは、Drが本年6月より富樫より、小津昌彦に変り、ステージ、放送、レコードを通じて活躍しております。

作曲受賞作品　45年度芸術祭優秀賞「四つのジャズコンポジション」「無明頌」
スィング・ジャーナル誌ジャズデスク大賞
第3回 日本ジャズ賞「パラジューム」（作、演奏）
第4回 日本ジャズ賞「天秤座の詩／ニューハード＋佐藤允彦」の作曲

ピアノ　中山千夏　佐藤允彦　　ベース　荒川康男　　ドラムス　小津昌彦

西蒲田電子工学院通り　TEL(738)4187
麻雀
ロン

BLACK NOTE ORCHESTRA

その　いちねん

Swing……Swingとはなんだろう？毎日思案にくれ…そのうちに1年が過ぎてしまった。
JAZZはその歴史の中で自由を追求して来たということを認識できる、その自由とは、勝手気まま、自由奔放の自由ではない。権力や偏見に抑圧された者が心から念願する自由であり、平和の願いをこめた自由である。
個人性の自由ではなく、連体性をもった自由であるといえると思います。
我々は、黒いJAZZにすこしでも近づこうと、毎日きびしい練習を続けてまいりました。6月にはサンケイホールでLet's drive toqether、11月には、品川でダンパーと僕達の演奏をお聞かせすることが出来ました。
何でもそうなのかも知れませんが、ビックバンドってのは一人や二人がいくらやる気を起こしてもだめなものですネ。あらためて一致団結という言葉を考えさせられた次第です。今年も一年間いろいろありました。
演奏の方は……？　というとそれがどうも……
一生懸命やります　　お聴き下さい。

PROFELE ——6周年を迎えて——

世界情勢の変化とともに、我々BLACK NOTEも移り変わり、我々の時代になりました。音楽部創立以来もう6年目であります。最初は楽器もなく楽譜もなく非常に苦労しましたが現在はこのようなフルバンド編成になるまでに成長しました。
しかし学校生活が二年間というかぎられた期間の為あらゆる面において他の学生バンドとは違った制約を受けます。我々に与えられた課題はこの短かい2年間をいかに有効にすごすかで決まるでありましょう。
毎日毎日の練習の明け暮れで途中で脱落するものも数多くいました。でも、ここに残った部員23名は心から音楽を愛している者ばかりだと思います。技術はまだまだ未熟な点が沢山ありますが、ブラックノートをこれまでになるように惜しみなく御助力御指導して下さいました。
当学院ホールの皆様、ビックバンド・オブ・ローグスの方々、法政大学ニューオレンジ・スイング・オーケストラの方々、また諸先輩の皆様に部員一同心から感謝いたします。

3 RD STAGE

1. THE CAT

2. RAIN DROPS

3. BOOZE AND BABY'S BOOGIE

4. HOW IN SENSITIVE

5. GROOVE MERCHANT

6. IT WAS ONLY YESTERDAY

7. APRIL IN PARIS

RAIN DROOPS

なにかいいことないか小猫ちゃん、あすに向って撃てなどの一連の映画で音楽監督、バート・バカラック旋風をまをまきおこした。バカラックの作品ですこのふめんは、我々の加盟している山野ビックバンドサークルの講師である森寿男とブルーコーツからもらった曲です。

BOOZE & BABYS BOOGIE

渡辺貞夫のオリジナルで何か異様な感じをただよわせるMediumな軽快なRockです。B lack Noteの独特なフィーリングで悪乗りしそうな曲です。さて、どんな演奏になることやら……？

IT WAS ONLY YESTERDAY

クリア・フィッシャー楽団のナンバーで、B·Sax、Bass、Tpとソロがうけつがれます。いつも恐い北沢君やロうるさいコンマスのテクニックがはたしてどれぐらい生かされるか見物です。それではコンマス最後の悪あがきをお聞き下さい。

GROOVE MERCHANT

サド・ジョーンズとメリー・ルイスOrchのナンバーで新鮮な感じのするスイングです。16分音符がドヒャーーと出て来るSaxセクションのソリがどれくらい合いますかお聞き下さい。

HOW IN SENSITIVE

誰の心にもストレートにしみ込んで来るボサノバの流れる様なリズムが印象的です。途中Tp，Tb のソロが入り、曲をいっそうひきたたせます。

エイプリル インパルス

ジャズのスタンダード・ナンバーになっている名曲で、さきほど来日したカント・ベーシーOrchのスタイルでお送りします。途中のTpのコミカルなアドリブが印象的です。

THE CAT

アラン・ドロン主演　映画「危険がいっぱい」テーマ

ジミー・スミスのオルガンでおなじみの曲です。この一年間、我々のテーマとして使って来ましたが、今だに満足のゆく演奏が出来ません。Saxセクション全員がアドリブをとります。どれ位うまく演奏が出来るかお聞き下さい。

COFFEE
エストレリータ

■モーニングサービス
AM 8：30～PM 1：00
■PHONE (733) 6852
■西口五番街（日本電子工学院通り）

BLACK NOTE の卒業生

比嘉さん
サングラスをかけるとすごく渋い顔。
ジャズ的？顔になる。普段は、あまり多くを語らない。初めはとっつきにくかったが、練習中にはよく教えてくれる。演奏テクニックは、バツグンである。今日もきっとすばらしいアドリブが聞けることでしょう。

■執行さん
九州男児の彼、よく冗談を言い、非常に親しみやすい人である。冗談の合い間にまじめな事をいう!? ところが、練習が始まると、人が変った様にあの、少々肉づきの良い体で強烈な8ビートを、又ボサノヴァのリズムを刻むのである。他の部員に位べてマージャン、パチンコはほとんどやらない。ヒマを見つけては、B・リッチ、C・ベーシーのテープを聞いて研究している。さて、その成果はいかに……

橋本さん（通称Dハシさんと呼ばれる）
シーン　居るのか居ないのかわからないそれぐらい静かで、しとやかな先輩…とても親切で、そしてチョコラッとテレヤ…
Dハシさん！　返事がない　探したらすぐうしろにいた　ドヒャー〜!!
ビックリしたなァ〜モウ
スラーッとはいかなくて背が高く、人が木をかけている。　ニユッとしたら大がころんだって……
ゴメンナサイ……

北沢さん
見ての通り事クラブに関してはまじめな人である。休んだC年クラブ員あれば、ていねいに理由を聞いてくれる。そのたびに我々は返答するのに四苦八苦。又、この一年間、クラブの無い日はあっても、部室で顔を合せなかったことがない。いかにクラブを愛していたかが、うかがえる様な気がする。けど一つ、気にかかったのは、意外にもステージの上での緊張が、すごいのである。「北沢さん！あの……」（一人つぶやく様に）「今日は乗らねえなぁー」

北沢 静宏

4この印はオしの文

中野谷さん
ステージではあまり顔を見せないが、練習中にはかかせない存在である。彼女がいない日は何となく練習にはり合いがなくなるというのは……
わがクラブのマスコット的存在の彼女、いつもミニスカートでさっそうと練習に出てくる。スタイルもイカしていると某氏いわく。
たまに休むと、皆練習がだれてくるという、不思議な存在でもある。その彼女、電算機部の一年コースであるため、2年に混って、この春卒業である。これから先残された野郎どもの練習はどうなることやら。

松崎さん
この二年間、彼は一生懸命やりました。
エッ？　なにをしたって？　それは決っているじゃないかな？　彼は五うち、板並べ…
先輩今日はどうでした？　当然…
当然負けたョ　カクン
陽気な、たのしい存在の先輩でした。

高橋さん
メガネをかけ、いつも真自面な顔をして練習にくる。練習がおわるとギャ〜
ビックリするゲバ、しまる所がしまっている所がしぶいネ、この先輩クラブ切ってのハンサム!?
男の子にキャーッ（1回でおわり）ともてる所がまたしぶい、男の中の男って感じ…

松井さん
彼はクラブで一番のテクニックをもち、バツグンの感をしている。それに引きが良い。TENPAIが早い……。えっ何の話しかって？もちろん、部室にいなけりゃ雀荘にいるという具合。大のジャン好きである。又、オシャレでもある。いつもカッコいいスーツを着ている。それにくらべてこのオレは。「あーあ」、松井さーん取り替えて〜。

南さん
皆が、一番頭の上らない人がこの人である。かと言って、格別えらいということではないのだが、皆の一番弱い所、つまりネカを集める係、会計をやってるためである。この仕事は皆さんも良く知っている通り、やさしそうであって、難かしい。先日、役員がC年の手に移った。会計ノートを見ると、金の払ってない人は……「南さ〜ん部費3ヶ月分!!」
「こちらは会計、南さんどうぞ。」

菅さん
このクラブに入って、まず気づいた事には、身長にかなりの差がある人がいるということである。
普段は、あまり目立たない存在だが、ステージにひとたび上ると、ボサノヴァのソロ、ロックにバツグンのテクニックを見せてくれる。
又理論もよく知っているのである。
アルコールは……あまり強くないらしい。女性関係は…？
誰かいい人がいたらよろしくお願いしま〜す。

寺崎さん
いつもニコニコ、よく笑う、通称『オバチャン』。何となく、そんなムードが、漂よっている。（失礼！）練習中でも（パート練習）よく笑う。元来明るい人間の様子である。ある日部室で、
C年が数人タバコを？吸っていた。
1人だけすわれない者がいた。
そこへ〝オバチャン〟が入って来て、
ハイこれ。何かと見ると、アメであった。
……ムムなっとく。

小松さん
彼は、演奏上のリーダー・コンマスである。
クラブ員の中では、割と落ち着いている感じである。ところが、マイクの前に立つと、頭に手をやり、後を振り向き、「えーっと」を連発するのである。
少々うるさ方ではあるが、根はいい人……らしい。練習の前の空時間によく麻雀をやっている。
手の内はっ……と、おっすごい。
リーのみ単騎待ち!?

桜井さん
幼ないというか、あどけないというか、可愛いというか、とにかくそういう先輩です。
しかし、一たびペットをもてば、情熱的な、アドリブ・ソロを聞かせてくれます。
きっと、アノ人を思い浮かべながら演奏しているのでしょう。

蔵元さん
一見モソッとしているようにみえますが、よくみてもやっぱりそんな感じの先輩です。
いつもおちついていて、この先輩があわてたのを見たことがありません。目がねをとれば、鞍馬天狗か宮本武蔵。
きげんが悪く得意のハイトーンがでないときは、素敵な彼女とけんかしたとき？

MEMBER紹介

REEDS

As	比嘉康雄	2
	松井一俊	2
Ts	南　秀雄	2
	松倉利一	1
	佐々木敏宏	1
Bs	小松　茂	2

TROMBONE

	松崎幹比古	2
	高橋俊一	2
	橋本研一	2
	橋本輝幸	1
	片岡恵一	1
	萱田光宏	1

TRUMPET

	蔵元修三	2
	桜井　博	2
	土居一夫	1
Bass	北沢良展	2
	市嶋正志	1
Gujter	菅　正好	2
	中野谷佐登美	1
	源平健太郎	1
Drums	執行正博	2
	山本洋司	1
Piano	寺崎　環	2

次期役員

部長	松倉利一
副部長	市嶋正志
総務	
会計	萱田光宏
備品	山本洋司
コンサート・マスター	橋本輝幸
マネージャー	佐々木敏宏
サブ	土居一夫

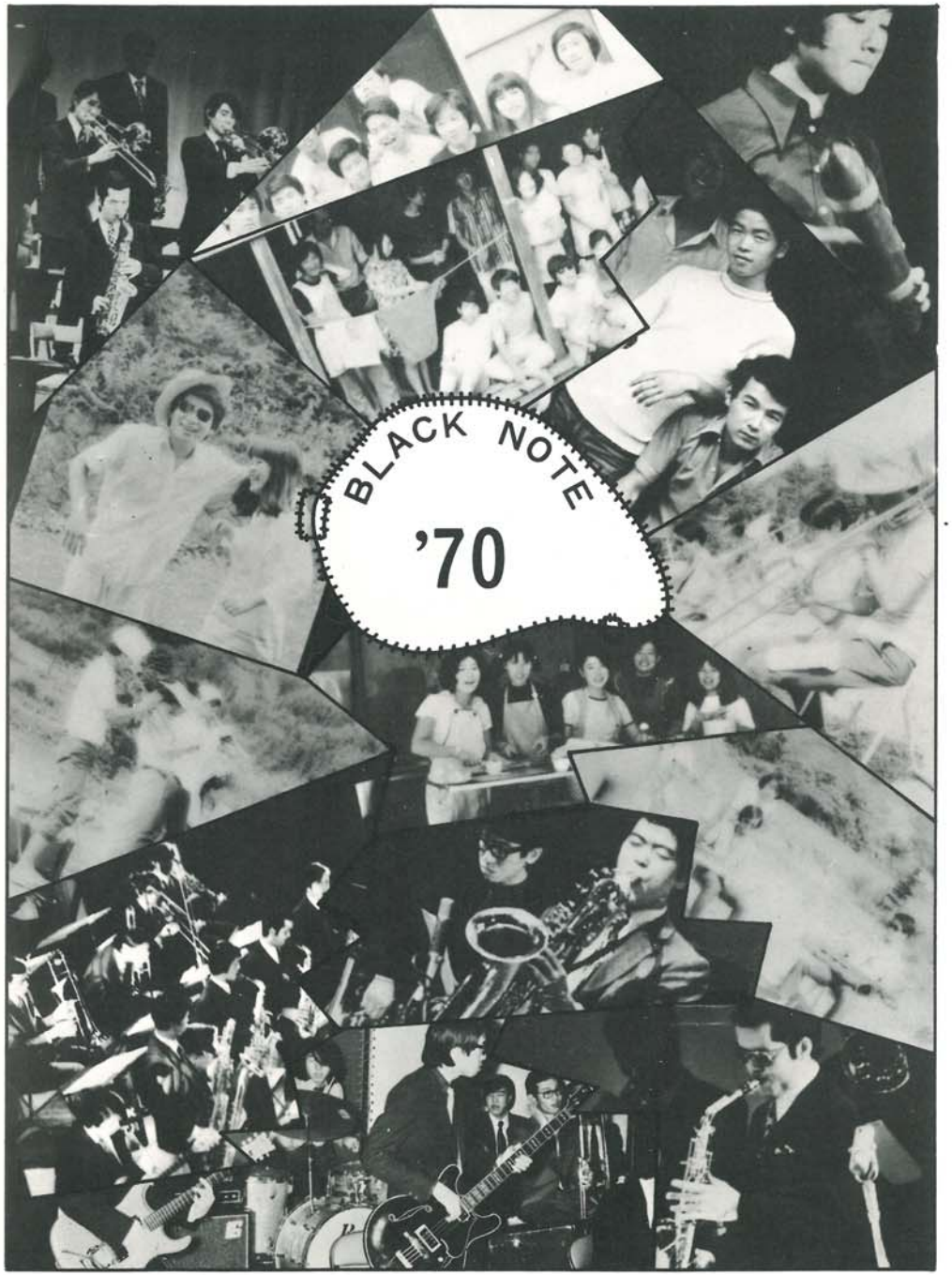
スタッフ

構成・演出	音楽部
照明	郷治正雄・大串克美
音声	本間敏弘
美術	周　雅融
音効	高橋柳太郎
司会	小松ユキ
総合司会	上山源司郎

OB. 峰正彦

(2～3年前のうみちゃんぶ才のD.J.

連絡先　町田市原町田1の18の3
松倉利一　TEL.0427(23)0743



山野音楽教室会員募集

YAMANO MUSIC SCHOOL

恋の言葉につまったら
楽器にきみを
語らせよう

"音楽は口ほどに物を言う"のが現代
あるときは
グループの中でさっそうと——
あるときは
憂いに沈んでひとり——
楽器と共にあるきみは
つねに男の魅力にあふれている

山野ならではの豪華な教授陣で
週一回、楽しいレッスン

なにごとも本格派を目ざすきみに
バイオリン教室
講師　加藤真栄先生

ムードを大切にするきみに
ギター教室
講師　小倉俊先生

陽気でセンチなきみに
ハワイアン教室
講師　灰田有紀彦先生

夏の海辺で人気者になりたいきみに
ウクレレ教室
講師　灰田有紀彦先生

一つの楽器では物足りないきみに
エレクトーン教室
講師多数

お申し込みは、TEL(562)5051音楽教室係までどうぞ

山野楽器
本店・東京都中央区銀座4丁目 TEL(562)5051